

花まるたより

2023
12

INDEX

- 高濱コラム
2023 年の花まるっ子写真館
- レインボータイム
花まる親子探偵団レポート
- 聴人の無人島レポート
花まるリビンガ
- おはなしのキッチン
平沼純の旅する読書
- とある花まるの先生が、
わが子の中学受験に直面した
- Rinコラム
タカラモノはここに
- 花まるコラム
花まるフタミリー



平和の空を

9月号で書いたら結構な反響があったスーパール算数の同窓会ですが、仕掛け人の開成中のAさんとBくんも、女子学院中学のマドンナEさんも参加して、11月に無事開催されました。男子2人のうちどちらがEさんに好意を持っているのかは聞いていません。2人とも好きなかもしれないし、片方が恋心を打ち明け、もう片方が『小さな恋のメロディ』のジャック・ワールドよろしく、友人として仲を取り持つ役回りを演じているのかもしれない。そこは詮索しませんが、2人とも1学期に来たときのむさ苦しい男子校モードではなく、髪も切ったばかりだとわかるし、服は若者ファッション雑誌に掲載されてもおかしくないくらい、キメていました。

参加は10名。みんな背も伸び、「ラグビーをやっています」「短期留学など英語の学習が大変なのだけれどやりがいを感じています」などなど、選んだ中学で元気に頑張っていることが報告されました。同窓会として何をやったかという「思考力ゲーム大会」。まずはアルゴ対戦。アルゴクラブ出身者が多いこともあり、フルの4名6枚戦（子どもが3人のテーブルには、私、一色、梅崎の3人が交代で入りました）ですが、

ハイレベルの戦いがなされました。適当に流している子は1人もおらず真剣に打ち込み、「ということとは、2つに1つの賭けですわね」などと呟きながら、いま目の前で思考が深まっていることも伝わってきました。

次は弊社で出したばかりの『四字熟語かるた』（永岡書店）を使つての、カルタ対戦。私が裏面に書かれた意味を読み上げて、表面の四字熟語を見て札を取るというものですが、まあこれも国語力に自信のある子も多く盛り上がりました。途中では、お手付きで大笑いあり、男女が1枚の札に同時に触つてしまい照れる（ここは男子が「あ、どうぞ」と譲っていました。場面もありながら進行し、そして優勝はぶつちぎりです。さんでした。

最後は、年中コースの教具として使用しているアイキューブ大会。この教具の良いところは平面も立体も、簡単な問題から大人にも厳しい難問までどのようにでも自由に設定できること。「わーいアイキューブだ！」と喜ぶ子もいましたが、「すべて裏返して詰め切る競争」などの難問を出したところ、ウンウン唸りながら熱中していました。

総合優勝もEさんでしたが、みんなが楽しそうなのが一番嬉しいことでした。最後の雑談タイムでは、やりたりないアルゴ対戦をする子、おしゃべりに夢中になる子、Eとの交換をする子など、最後まで和気藹々としたムードで終了しました。「これ、スーパール算数の伝統にすればいいんじゃないですか」という声も上がりました。確かにここで先輩後輩というコミュニティができれば、学校・部活・お稽古事とはまた別の「居場所」他校の友達がいて遊んだり話ができたり、また悩みがあつたら相談できる場所」として、健やかな人間形成に寄与するなども感じました。

そしていよいよお別れのとき、たまたま仕掛け人の男子2人とEさんが近くにいる瞬間がありました。私はその一瞬を逃さず「そこ3人並んで。写真を撮ろう」と言うべく、素直に並んで笑顔ポーズ。撮り終えたとき、左端にいたAくんがEさんには見えないように、体の横で私に親指を立てたグッドサインを送ってくれました。まあ、これからどうなるかは神のみぞ知るですが、同じ教室で学んだ仲間として、いろいろな場面で助け合つて仲良くしていければよいなと感じました。私は講演会などで、年中から大

『学校がウソくさい』

新時代の教育改造ルール』

藤原 和博 著（朝日新聞出版）

高濱の本棚



日本の公教育を何とかしたいと願う者にとって、必読書となるであろう一冊。公立中学校や高校の民間校長という貴重な経験を重ねた筆者ならではの、学校の現場を知る、詳しく具体的な改革の手引書である。

花まるだより 2023年12月号

（令和5年12月15日発行）

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱 正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

学院生まで教えた経験から「どの学年もそれぞれに面白い」と言いますが、今回も思春期ならではの若葉のかわいらしさを見せてもらい、かわかる教師側としても幸せを感じる一日となりました。

さて、年末。世界を眺めると、昨日まで日本と同じように平和を享受していた国が国連常任理事国に一方的に攻め入られるという戦争の長期化に顔をしかめていたら、また別の場所で残酷な戦争が始まっています。コンプライアンスだ条約だと理屈をかざしたところでもどうにもならない理不尽が、いつ起きてもおかしくないのが世界の「常識」なのだとは歴史は教えてくれています。ボーっとしていると国家が無くなることだってあります。

そんなキナ臭い想像をしてしまう時代に、今回のような同窓会を開いたり、毎日の授業やサマースクールをつつがなく開催できたりすることには、本当に平和のありがたみを痛感します。

子どもたちが健やかに育つことのできる平和というかけがえのない宝物を守るために、どうあるべきでしょうか。

私は国と国も大事なことは個人対個人と同じだと思います。「頭が良く、心が強く、魅力的であること」。その力があれば、役割を与えられ存在し続けることができます。小・中学生の不登校が2年連続急増し

ているという事実は、この国が改革を必要としているという一つの証拠でもあると思います。大自然のなかでの遊び込み、人間関係でもまれること、人を笑わせる経験をすること、一芸などでまわりを惹きつけること、やるべき課題に努力を積み重ねられること等々の経験を子どもたちに提供し続けることを通して、花まるグループは、これまでと同じように変わらず「メシが食える人、モテる人」を目指し、コツコツと日々の教育に専心していきたいと思っています。良いお年をお迎えください。

花まる学習会 高濱正伸

新刊情報

『マンガとクイズでまると覚える！ 日本の歴史カード』

高濱 正伸 監修 狩野 崇 監修 (永岡書店)



「解説ブック」「クイズカード192枚」「日本の歴史すごろく」、この3つで日本の歴史が学べる教材です。「日本の歴史年表」「爆笑4コママンガ」「トピックスの詳細解説」「クイズ」で構成された解説ブック、受験頻出のキーワードを問うクイズカード、日本の歴史の大きな流れをさかのぼることができるすごろくで、楽しみながら知識を深められます。

『お手本音声つき！ 1日1分おんどくブック』

高濱 正伸 監修 (Gakken)



文字を目で追ひ、声に出して読み、実際に読んだ音を耳で聞く音読。さまざまな感覚を使うことで、脳が活性化され、言葉の発達や記憶力の向上につながり、文字や読書への興味関心も広がると言われています。1回1分で取り組める紙面、「お手本音声」「読みやすい工夫がされた紙面」「音読しおり」などのアシストにより、楽しくスラスラ音読ができるようになります。

『10才からの自信をもつ方法』

高濱 正伸 監修 深蔵 マンガ (永岡書店)



10才は、子どもがぐっと大人に近づく年齢です。自分のことを客観的に見るようになり、他人と比較することでさまざまな感情をもつようになっていきます。大人になるためのヒントがたくさんあったこの本をぜひ親子で読んで、いろいろな話をしてみてください。

『四字熟語かるた』

高濱 正伸 監修 (永岡書店)



「千載一遇」「表裏一体」「満場一致」…花まる学習会で教えている四字熟語のなかから、特に覚えておきたい46語を選定。リズムのいい読み札と、動物いっぱいかわいらしいイラストで楽しく四字熟語を暗記できます。ふりがなつきなので、遊びのなかで語彙力UP。学力の素地を育みます。絵札の裏側には、表で取り上げている四字熟語の意味とヒント(例文)を掲載。暗記カードのようにすれば、一人でも楽しく遊ぶことができます。



年も ざいました！

さまにとって
なりますように





2023
 ありがとう
 次の一年もみな
 実り多き一年に

年賀状を
 お届けします！
 新春なぞペーも
 どうぞ楽しみに！

？



こん げ っ

今月のレインボータイム

出題：坂田 翔 (花まる学習会)

【充電式！床拭きロボめいろ】

かいどう
解答はこちら！



ゆか 床にインクがこぼれちゃった！ じゅうでんしき ゆか ふ 充電式の床拭きロボが、

「3マス進んで、4マス目で充電」を繰り返して

すべてのインクを拭けるように、進む道を考えよう！

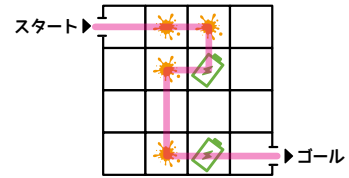
ねんまつ レッツ年末おそうじ！

あいことば 合言葉は、「1、2、3、充電！」

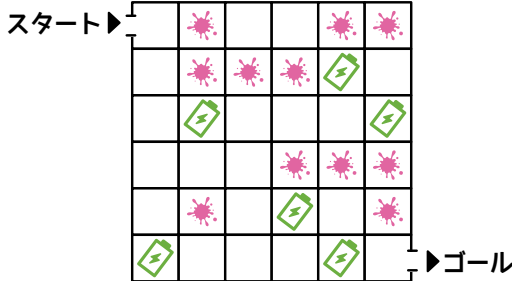
- ・すべての床を通らなくても OK です。
- ・同じ床は2回通れません。

れい

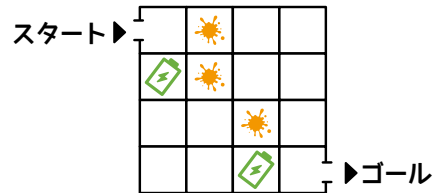
インク 充電



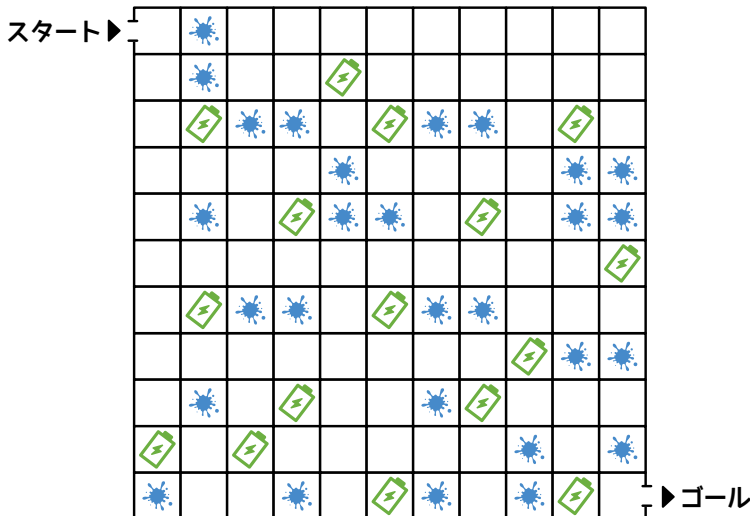
レベル30



レベル10



レベル99



ピクチャーリーディング



写真と同じ場所を探して
ポイントGET!



花まる親子探偵団

～2023秋～

都立芝公園（東京都・港区）で
開催しました!

次回は2024年6月頃に開催予定です。



写真ミッション

トラと写真を撮ろう!



東京タワーの真似をして
東京タワーと一緒に
写真を撮ろう!



に王像とジャンケンをして
勝った写真を撮ろう!



家族でなかよしな
写真を撮ろう!



なぜとき

問1



①②③④ご = ?

スタッフミッション

- 徳川将軍15代を覚えて言えるかな?
- 親子でジェスチャーゲーム
- あるなしクイズ

スタッフを見つけて
ミッションクリアすれば
ポイントGET!

〈ある〉

東京 山形 長野

奈良 広島 宮崎

〈なし〉

千葉 青森 新潟

三重 鳥取 熊本

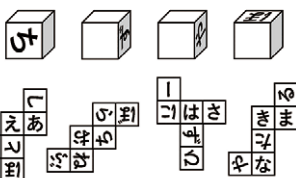
四国は全部ある

感想

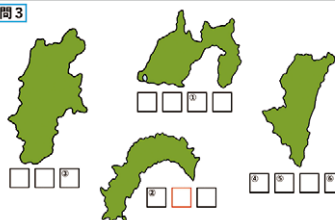
- 自宅から芝公園、そして帰宅まで二万歩歩きました! 頭も体もフル活用でした。でも、疲労感く達成感です。
- 子どもとたくさん話したり、写真を撮ったり、普段の家族のお出かけとは違う楽しさがありました。
- 普段、家族で力を合わせて何かをやるのがほとんどないのですが、今回の企画で家族みんながそれぞれの得意分野で活躍することができました。

問9

与えられた
展開図を組み立てたとき、
正しい向きの文字をぬめ。



問3



①②③④⑤⑥ = ?

職人の無人島レポート 31

「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

社員開拓団②

空港で合流したライガーをハイエースに乗せて、一路拠点へ向かう。あるものを載せるためだ。道中、みんなで久しぶりの再会を喜び合う。広島に来てからというもの、日常的に会話をする相手が減った。だから闇夜をさまよい生者を求めるゾンビのように、人に飢えているのだ。シャー。

私とカトパンは、社内でもライガーとのかかわりが深いほうだと思つた。私はライガーの「サバイバルキャンプ」にスタッフとして参加してお世話になったし、カトパンに至っては、サマースクール「ライガー」と行く！開拓ボクらの北海道」に参加して現地の人たちや大自然に心打たれ、その後すぐに北海道に移住してしまつたほどだ。文字通り人生が変わっている。そんなライガーと今行かう開拓のメインは、水の輸送である。

『天使にラブ・ソングを』が再放送しているくらい何度も言うが、無人島には水がない。水道はもちろん、川もない。生きるために必須である真水が得られないのだ。ゆくゆくは井戸の掘削を考えてもいるが、当面は本土から水を持ち込むしかない。そのために島に設置したタンクの容量は500ℓ。1年目、カトパン

はそれを1人で満タンにした。イメージは、灯油の赤いポリタンク。あれを28個運ぶとだいたい500ℓになる。拠点の水道で汲んだ水を車に積み込んで港へ運び、船に積み替えて島へ渡り、砂浜に足をめり込ませながら島に運び上げて、タンクに一つずつ手を入れる。一度に運べる量ではないので、それを初めから数セット繰り返す。それがあまりにも過酷だったと遠い目をしたカトパンから聞くに及び、今年からは文明の利器、エンジンポンプを試してみようということになったのだ。

拠点到着くと、3人で巨大な500ℓタンク2つをハイエースに積み込む。それだけで荷台はいっぱいになった。ちなみに、家でお風呂に入るときに溜めるお湯の量の目安が250ℓだといわれている。つまりお風呂4回分の容量。バスタブ4つ分の圧迫祭りだ。タンクの上部にある大きな口に、庭の水道から伸ばしてきたホースを差し込んで注水をはじめ。一晩で田んぼの水を飲み干してしまうと恐れられている何らかの妖怪のように、タンクは水を溜め続けた。

注水を終えて港へ向かう。明らかに車が重い。うなりを上げて走るハイエースは、どこか牛を思わせた。港に着くと、空のほうのタンクを船に積み替えて2

つのタンクをホースでつなぐ。その間に小型ポンプを接続して首尾は上々。船にライガー、車に私。ポンプにカトパンがつくと、リコイルロープを引いてエンジンを始動する。出でよ文明、そして願いを叶えたまえ！……あれ？…水出でないよ。

(つづく)

花まる学習会 橋本一馬



島の入り口に設置された巨大な500ℓタンク。どうやって満水にするか。

無人島企画や最近の様子を配信中！ぜひ登録してね！



カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

花まる学習会関西ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のモデルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザーなど、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。2022年から広島に移住し、無人島開拓に携わっている。ソロキャンプが趣味。





花まる教室長がお届けする
子育て奮闘記

花まるリビング

30

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小3・小1・1歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



子どもは親の想像を超えていく

この四月に、一年生になった長男A。四月末の先生との面談では「真面目に頑張っています」とのこと。いいスタートを切れたのかな？と思っていたのですが…

五月、学校の宿題が本格化し、「くりあがりのない足し算」「くりさがりのない引き算」の計算カードが宿題で出るようになりました。家で「計算カードをやるよ」と声をかけたとなん、「いやーだー」と泣きわめく。花まるの1日1ページの計算の宿題「サボテン」も同じように泣きわめく。

計算がまだスムーズにできないのがいやなのかな？
と思いい、「わからないときは指を使ってもいいんだよ」と言っても「いやだ」と泣く。肘をつく。机につぶす。絵を描く。好きなポケモンでたとえるなど、親側の試行錯誤も効果なし。あまりに態度が悪いので、何度、怒りを爆発させたことか。宿題Ⅱいやな時間という認識になってしまい、長男の態度がますます硬化。日により波はありつつも、一学期間、ずっとそんな状態でした。

九月。サボテンが、一年生の算数の山場のひとつ、くりあがりの足し算」に入りました。

（ああ、ますます大荒れだ）
ごくつとつばを飲み込み、そつとAの前で、新しい単元の解説動画を流します。

（ふむふむ、動画は一応観ているな。でも、いつ号泣するか）と構える母。

動画視聴終了。「最初のページだから、タイムは計らないよ」と言つと「計っていないよ」という返事。

（ん？意外と大丈夫そうだな）

「よいい、スタート」のかけ声で、素直に鉛筆を動かして始める息子。

!?!?
（え、くりあがりのない足し算のときの号泣はどこに

いったの!?)と驚愕する母。結果、全問解き終わり「できたよ」と淡々とサボテンを見せてくれました。

ちょっと待て。ここはあえて掘り下げなくてもいい嫌味を言わなくてもいい素直にほめるところ!…とは思ったけれど、どうしても、ひとこと言いたくて仕方がない。

「え、どうして、6+2の問題はわからないって号泣するの、くりあがりのある6+7とか、6+8はすんなり解くの!?!」

「だって、こつちのほうは、工夫することがあっておもしろいじゃん」と、息子の一言。そのまま、果敢とする私をおいて、息子はすたすたと歩いて行つてしまいました。

なんだか、もう、脱力でした。この一事例だけをとつていうと、彼にとっては、単純計算より、いくつかステップのある計算のほうが「おもしろかった」。だから、素直に向き合った。問題に自ら取り組む基準は、スムーズにとける・とけない、ではなく、おもしろい・おもしろくない、だった。

息子の一学期の宿題への取り組みを見て、彼は計算に対して苦手意識があると思っていたので、（もつと就学前に数え上げをやればよかった）（ちゃんと求めて叱りすぎちゃったかな）と親なりにぐるぐると反省するところがあつたのですが、そういうものを軽々ととびこえて、予想外のことをしてくるのが子ども。いつだって、こちらの思う枠の中にはどまってくれないものです。

一年生一学期の「号泣宿題期間」を経て、考えたこと。（就学前にある程度学習に向き合う体力をつけておくのは必須、体力と勉強に向かう姿勢は関連する、数え上げ経験はとても大事、書き順は定着させるのに時間がかかるから、素直なうちに楽しく触れるのがよい）など、数多くありますが、母親としての一番の学

びは、

「子どもは親の想像を超えていくから、心配し過ぎても仕方がない」

まったく心配しない、というのはきつと無理だと思ふのですが、その子が見ている「親には見えていない世界」を信じて、そつと見守ってあげることが大切にしていきたいと思います。

親には見えていない
「子どもの世界」

花まる学習会 勝谷里美



『ちいさいモモちゃん』

松谷 みよ子 作
菊池 貞雄 絵
(講談社)

こちらにも名作。「子どもの想像力の本って何だろう?」と考えたときに、ぱつと浮かんだのが、この本のじゃがいもやニンジンが走るシーン。読んだのは何十年も前なのに、覚えているものですね…。幼い私の想像の世界に、確かに思っていた本なのかもしれません。



『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック 作
じんぐう てるお 訳
(富山房)

子どもの想像力、「大爆発!」を感じさせてくれるこの作品が大好きです。大人になって読むと、子どもの心のなかに展開している、無尽蔵で彩り豊かな世界をそつとのぞき見させてもらっている気分。



突然ですが、クイズです。毎年いまの時期になると至るところで飾られるクリスマスツリーは、きまつてモミの木など、冬でも緑色の葉をつける常緑樹です。それは一体なぜでしょうか？

答えは、「冬でも緑色の常緑樹は、『永遠の生命』の象徴としてふさわしいから」です。実は、クリスマススの起原は古代ヨーロッパにおける原始宗教、ミトラ教の「冬至祭」とされています。かつて、冬はいまよりずっと寒く、夜になるといまよりもっと深い闇が広がっていました。そんな時代の冬は、生きとし生けるものにとつて文字通り「死をもたらす季節」。だからこそ当時の人々は、一年で夜が最も長い冬至の日の夜に盛大に火を燃やし、「年中枯れることのない常緑樹を『生命の象徴』として飾ることで、『早く暖かな春がやってくるように』と祈りをささげていました。つまり、クリスマスツリーとは『世界のすべての生命に、永遠の平和が訪れるように』という、古の人々の願いが込められたものだったのです。

北欧の国フィンランドを代表する「ムーミン」シリーズの『一冊、『ムーミン谷の冬』には、そんなかつての冬至祭の風景を思わせる場面が描かれていて興味深いです。

ムーミン一族は冬になると冬眠しますが、主人公のムーミンとローレはひよんなことから目覚めてしまい、生まれて初めて一人だけで外の世界への冒険にくり出します。すると、いままで単純な「死の世界」だと思っていた冬にも、実に豊かな生命の営みがあったのです。冬の住人たちが、凍てつく夜空に向かって盛大に燃やすかがり火。闇のなか

から見た光のまぶしさに「死」から見た「生」の躍動に触れてムーミンとローレの世界はどんどん広がっていきます。

そんな冬の住人たちのなかでひととき存在感を放つのが、ことあるごとにムーミンとローレを導くトイ・ティッキ（おしゃまさん）です。ムーミンとローレが自分で答えを見つけてくれるよう的確な助言を与え、しかしつかず離れずの距離感を保つ、魅力的なキャラクター。

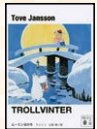
「わたし、北風の国のオーロラ（北極星）のことを考えてたのよ。あれがほんとにあるのか、あるように見えるだけなのか、あんた知ってる？ ものごとってものは、みんな、とてもあいまいなものよ。まさにそのことが、わたしを安心させるんだけれどもね」（トイ・ヤンソン 原作・絵／山室静 訳『ムーミン谷の冬』講談社文庫より）

そんな物事の二面性について説きながら、彼らが小屋のなかでムーミンとローレにふるまうのが、温かい「魚のスープ」です。

物語のなかにはこの魚が何を指すのかは記されていますが、北欧を代表する魚と言えば、やはりサーモン。濃厚なスープに、大きめに切られたサーモンがいくつも入っているサーモンスープは、フィンランドでは「ロヒケイツト（Lohikeitto）」という名で親しまれている、伝統的な郷土料理です。

クリスマスと言えばローストチキンなどが定番料理ですが、このサーモンスープのような伝統料理で食卓を彩り、冬の世界、あるいは古の人々の思いを想像するのもおすすめです。

PICK UP



『新装版 ムーミン谷の冬』

トイ・ベ・ヤンソン 原作・絵
山室 静 訳
(講談社文庫)



スクールFC
平沼 純

スクールFC
平沼 純

サーモンと野菜のスープ

作業時間：30分 難易度：★★★★☆

レシピ・写真提供：料理家 江口 恵子 (natural food cooking)



recipe

材料

生鮭または生サーモン……300g
玉ねぎ……1/4 個
人参……5cm
じゃがいも……1 個

オリーブオイル……大さじ 1
塩……小さじ 1/2

生のディルの葉……みじん切りで
小さじ 1 程度と飾り用 1 枚

作り方

- ① 鮭は一口サイズのそぎ切りにし、塩、胡椒 少々（分量外）を振っておく。
- ② 玉ねぎは皮を剥いて 2cm 角、人参とじゃがいもは皮を剥いて 1cm 角に切る。
- ③ 鍋にオリーブオイルを入れて温め、②の野菜をしんなりするまで 3 分ほど炒める。水 400cc と塩を加え、沸騰したら①を加える。7～8 分煮たら火を止め、刻んだディルを加える。
- ④ 器に盛りつけ、大きめのディルの葉を飾る。



～さようなら 2023 年、
こんにちは 2024 年～



『クリスマスのりんご クリスマスをめぐる九つのお話』

ルース・ソーヤー ほか 文
アリソン・アトリー ほか 文
上條由美子 編・訳
たかおゆうこ 絵 (福音館書店)

とある時計職人に起きた奇跡の話、聖夜に言葉を使い始める動物たちの話、子ども部屋の片隅で人形たちがパーティーを開く話……。クリスマスにまつわる、心温まる9話のストーリーが収録された短編集です。読み聞かせにもうってつけ。偕成社から出ている短編集『クリスマス物語集』とあわせて読めば、クリスマスの古典的作品、現代の名作に多く触れることができます。



『かこさとし こどもの行事 しぜんと生活 12月のまき』

かこさとし 文・絵
(小峰書店)

知識絵本の大家、かこさとしによる行事絵本シリーズの一冊。全国で数多く伝えられている「ならわし」や祭り、西洋から入ってきた行事、自然や生活習慣などが幅広く紹介されていて読み応えたっぷり。12月の巻では秩父夜祭、羽子板市、クリスマス、おみそかななどがユーモラスなイラストで解説されています。クリスマス飾りの工作や冬の伝統的な遊びなどの情報も満載。



『十一月の扉』

高橋 方子 作
千葉 史子 絵 (講談社青い鳥文庫)

引っ越しを前に、2か月だけ「十一月荘」で下宿生活を送ることになった中学2年生の爽子は、個性的な人たちとの出会いを通して、やがてお気に入りのノートに自分だけの物語を書き始めます。「迷うことがあっても、十一月なら前に進むの」。人が「自分の物語」を紡いで生きる素晴らしさを描いた、読後感非常にさわやかな一冊。最終章ですべての登場人物が集うクリスマスの風景と、効果的に流れるシューマンのピアノ曲『飛翔』が実に印象的。



『馬小屋のクリスマス』

アストリッド・リンドグレン 文
ラーシュ・クリンティング 絵
うらたあつこ 訳
(ラトルズ)

「クリスマスのことを教えて」と聞く子どもに、母が語る一つの物語。むかし、暗く寒い冬の夜に、一人の赤ん坊が馬小屋で生まれた。そして、夜空には星が瞬いた……。聖書に描かれたキリスト降誕の物語を現代に置きかえ、世界のすべての人に普遍的に存在する「奇跡」を静かに描き出します。世界的児童文学作家リンドグレンの隠れた傑作。



『じょやのかね』

とうどうなりさ 作
(福音館書店)

おみそかの夜、初めてお父さんと除夜の鐘をつきに行く男の子の姿を、繊細な版画で描いた絵本。神社への暗くて静かな道、家々の窓から漏れる光、神社に集まるたくさんの人々と甘酒の温かさ、そして耳の奥にこだまする鐘の音……。ぜひ1ページ1ページをじっくり見て、なつかしい雰囲気漂う日本の大みそかの情景を味わってください。



1月 (第9回) 「本×MANGA ～物語は境界をこえる～」

今や日本が世界に誇る「MANGA」文化。一見すると活字の本とは対立するものと思われがちですが、確実に存在するそれらの接点や、共通して描き続けてきたものに触れることで、新たな世界が広がります。MANGAの源流となった諸々の伝統芸術、アニメや映画などの映像作品もあわせて紹介。物語表現の可能性に迫ります。

1/18 (木)・1/20 (土) 10:30～12:00
参加費 家族500円 (税込)
申込締切 開催前日の19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2023/>



とある花まるの先生が、 わが子の中学受験に直面した

その9 心まで乱気流
(6年生1月)



年が明けた。年末年始は怒涛の冬期講習や正月特訓。Sもようやく受験生になってきたのか、年越しテレビを見たいと言うこともなく、机に向かう普通の日として年末年始を迎えた。

私は急に思い立って、1月入試が始まる直前に、学問の神様がいらっしゃる天満宮に、Sを連れて合格祈願へ。お参りでにぎわう境内は、紅白の梅もすでに咲いていて、よい香り。祈禱で読み上げられた志望校がSとかぶっている男の子もいたが、気にならない、気にしない。

昔、自分も手にしていた学業成就の鉛筆の格言は、「あせらずたゆまずおこたらず」「一歩一歩進め」など変わらない。いまも同じように受験生を励ましていたなんて、と感慨深く思っていたら、目を離れたときに、夫と子どもたちがおみくじを引いていた。心臓に悪すぎる。Sは大吉だったとニコニコ。Yは小吉だったと涙目。一喜一憂したら、何かのフラグが立ちそうだから、もはや何も言うまいと、アルカイックスマイルでおみくじを結ぶ様を見守る小心者の私。

さて、1月最初の受験校は、夫に送り迎えを頼んだが

「まったく緊張しなかった。模試のほうが緊張したかも」

とさわやかに帰ってきたS。緊張でガチガチは困るが、まったく肩に力が入らないのもどうなんだろうと首をかしげなくなる。川沿いで、なんかのんびりしていいんだよねと、夫もSも気に入って、第4志望に設定した学校だ。

結果は、無事に合格をもらうことができ、まずはほっと一息。WEBでポチッとすると、いきなり合格不合格が出る、いまだきの発表形式にドキドキしたが、幸先のよいスタート。

1月の2校目は、チャレンジ校。遠くて実際は通えないが、お試し受験に落ちることで、Sに危機感を抱かせて奮起させるために受ける。事前にFCの先生と「1月は1勝1敗で行きましょう」と作戦を相談してのことだ。

大きな会場で大勢の親たちとともに、子どもをひたすら待つ時間は何とも言えず：親子の数だけいろいろなドラマがあるんだろうなあ、とせつないような気持ちでまわりを見渡す。あまりにも待ち時間が長かったためか、試験を終えて列になって出てくるSを迎える頃には、ああ、うちの子と同じような、半そで半ズボン族は、令和の時代にもまだ生き残っているんだな、と見当違いの感想を抱く。出てくる男の子のうち、50人に1人くらいは、半そで半ズボン。1月のこの寒さで、よくもまあ。

結果は、目論見どおり、不合格。すっかり声変わりも完了した低い声で、FCの先生に不合格を報告する電話の声は、場違いに明るく軽い。

1月後半、ここから、Sのモチベーションはダウンしていった。インフルエンザもコロナウイルスも流行っていたので、迷った末に学校は休ませたのが、Sには凶と出たようだ。毎日、家と塾の往復。息が詰まるようで、「あとちょっとだから」と持ちあげると、立てた予定はなんとか消化するが、ふとした瞬間に、後ろ向きな言葉を毎日のようにこぼす。しまいには

「もう一こ受かったし、受験終わりでよくない？」
「と言いつつ、もともとあまり勝ち負けにこだわらず、マイペースなところが長所とも言えるが：これには私もがっかりした。」

たまたま電話で話した友人に、衝撃をこぼしたら「コールの共有がSとできていなかったんだね」

とぐうの音も出ないコメントをもらう。昔の少女マンガだったら、大きなギザギザの矢が胸に刺さり、ガガーンと、顔半分に思いつき斜線がかかっていることだろう。子どもにつられて親の気持ちも乱気流のように上下しているいま、正論は威力がありすぎる。家庭のなかでコールを共有し続けつつ、なかなか難しい：家族会議を定例にするのがよかったのかなあ…とつい泣き言が浮かぶ。ああせめて子どもには、この動揺を見せまい。

たいどうなる…!?

花まる学習会 川波朋子

家族構成

私



東京都内の私立中高一貫女子高出身。過去にはスクールFCで中学生の英語も教えていた。花まるの先生。わが家に神棚はないので、合格祈願のお札をよさそうなおところへ貼ったが、固定が甘く何度も落ちる…。自分の揺れる心は、いくつかの中学受験小説を読んで慰める日々。

夫



地方の公立校出身。コロナを経ておうち時間が増え、家事も育児もこなせるようになってきた子煩悩パパ。1月、2月は有給を使って、私と交代で息子を全力サポート。

長男 S



のんびりマイペース長男。1月末の大寒波。ベランダのバケツに張った水に、せっせと水を足しながら育てていた。透明度の高い氷が分厚くできて、小学生新聞に載っていたあれだ！と嬉しそう(冷凍庫に比べて、ゆっくりと凍るから、空気などの不純物が含まれず白く濁らない)。

次男 Y



お調子者の保育園児。1月31日の夜「お兄ちゃんは明日すっごく頑張る日だから、食後のイチゴはお兄ちゃんに多めにあげて応援しようね」と言ったが…寝る直前まで、なんでお兄ちゃんだけ…と不満たらたら甘えん坊。

こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

52

ルールを守る、
土台にあるもの

「これで、ながくなるから」「おもしろいね、せんせいもいっしょにやればいい？」「うん」大きな木の枝に結ぶための黒い毛糸を何本も持つてきて、それをさらに結んで長く長くしようとしている男の子がいたので、声をかけました。その日の授業中、一番手をあげて発言していた男の子です。

普段は簡単に人の作品に手を入れることはしません。誰が作者なのか、ということが大事だからです。でも彼の切実な作品への向き合い方と、そしてその挑戦のハードルの高さがかんがみて「いっしょにやろうか」と私はカメラを置きました。

時間にしてほんの1、2分。ふたりで会話もせずただ毛糸を結びます。その瞬間、彼を持つ雰囲気が変わったとほころんだ感じがしました。

保育園、小学校と継続して子どもたちを観察し、接しているなかで、何かしら立ちのよくなものを抱えた子どもと出会うことがあります。

かかわる大人は自分なりに指導し、関与してきたつもりであっても、「認めてもらった」

経験よりも「求められること」ばかりが多かった子どもの目からは、輝きが失われ、意欲も失われていく。

人のまちがいにも敏感になり、ときに乱暴になり、自分で自分をコントロールできなかったり、「どうして自分のことを見てくれないのか」と訴えたりする子どももいます。この本質はなんなのでしょうか。

「それはいけない」「こうしなさい」というように、強く指導をされ続けると、人はどんな意欲を失っていきます。怒りや憤りのような不満を常に持っているようにも見えます。

反対に、たくさん「共感」をし合うことで、子どもたちはどんどん心を開いていきます。嬉々として目を輝かせ、説明をしてくれるのです。

作品はその子の分身。だから作品を通してなら簡単に、その子らしさや、ありのままの彼らのユニークさを「いいね」とまると認めることができます。

人は、「もっとこうあってほしい」「こうすべきだ」「そうでないといけないよ」ではなく「見守ってもらえる」「容認してもらえる」とをじゅうぶんに与えてもらえらるからこそ、ルールや規律といったものも、きちんと受け止められるようになるものなのです。

「花まる（アトリエ）だと、彼のことを、たくさんほめてあげられるから、うれしいんです。いつもは、ちょっと黙ってね、いまは

待ってね、座りなさいって、伝えてばかりだから」

振り返りで、担任の先生がおっしゃった言葉を聞き、驚きました。彼はわたしのなかでは、「やる気満々賞」と「自分らしく表現に向かい合ったで賞」をダブル受賞していたからです。

そして、そう言わなければならない、先生の胸の内も想像しました。「こうあらねばならない」にがんじがらめになって、苦しめられているのは、私たち大人のほうなのかもしれません。

いっしょに作ったその大きな長い作品は、観賞会で誰からも触れられませんでした。が、わたしはそのユニークな発想が素敵だと思った、と最後に声をかけました。

彼らの目の輝きを見て、その心の躍動だけを頼りに、これからも子どもたちの前に立っていききたい。子どもとかかわるすべての大人が、そうあれますように。

Rin（井岡 由美）

Rin（井岡 由美）

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる前に』では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』（実務教育出版）ほか。

Rin せんせいの SNS など
すべてのリンクは
こちらから▶



Atelier for KIDS

全国から
参加可能!



1/21 (日) 10:30 ~ 12:00 世界に一つのカレンダー

対象 年長～中学生

定員 対面（お茶の花まるラウンジにて）20名

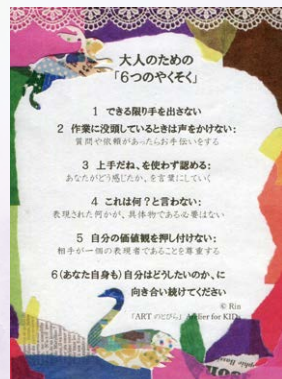
オンライン8名（ハイブリッド開催）

参加費 対面 2,800 円 / オンライン 3,100 円（郵送料、税込）

申込締切 12/21 (木) 19:00 <https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』（実務教育出版）より



令和の歌 縄文の歌

まるで水槽の中に 飛び込んで
溶けた絵の具みたいなの

ヒゲダンことOfficial髭男dismのヒット曲『I LOVE...』の歌詞です。この歌を聴くと、水彩絵の具が水の中で煙のように広がっていく光景が思い浮かびます。小学生の頃の図工の時間以来、絵の具を触ったことがなくても、あの不思議で魅力的な広がりを覚えている人はきっと多いことでしょう。心が動いた経験は、記憶に長く残るものです。私も図工の時間につくった作品の多くは忘れてしまいましたが、あの色の美しい動きだけはいまも鮮明に覚えています。

令和の子どもたちも、あの色の広がりが大好きです。年中で絵の具を使った授業の最後は、みんなで絵の具の皿を水槽に沈めます。もくもくと広がっていく絵の具が美しく混ざり合っていく光景を見て「うわー！すごいー！」「見て見て！ここ紫になった！」「と楽しそうに声を上げています。

遊ぶ子どもの声きけば、
我が身さへこそ動かるれ

子どもたちの楽しそうな声を聞いていると、『梁塵秘抄』の有名な一節を思い出します。

平安時代の末期、保元の乱に始まる混乱の時代、その渦中にありながら後白河法皇が拾い集めた庶民の歌の一つです。子どもと接していると、ふと甦ってくる子どもの頃の感覚。いまよりもはるかに生きることが大変であった時代でも、そのような瞬間は現代と同じようにあったのでしょうか。千年残るであろうこの歌は、時代が変わっても変わることのないものを教えてくれます。

先日、『バカ塗りの娘』という映画を見ました。江戸時代から続く伝統工芸である津軽

塗の職人と、その娘の日々を描いた物語です。

「バカ塗り」とは「バカ正直に漆を塗っては研いで、塗っては研いでを繰り返す」ためにそう呼ばれているそうで、映画のなかでも親子が淡々と作業する場面が映し出

されています。もちろんそれは俳優が演じたものではありませんが、職人が黙々と取り組む姿は、そこだけでも見る価値があったように思いました。

「バカ塗りは楽しくて、楽しくて止められない。やっているとおあしたい、こうしたいという思いが出てきて、次から次へとやりたくなってくる」

ベテランの職人がこのようにつぶやくシーンがあります。映画のなかの台詞ではあり

ましたが、この台詞は映画を制作する過程で、監督や脚本家が実際の職人に取材して得られたものだろうと確信しました。子どもたちを見ていると、まったく同じだとわかるからです。

花まるの教室でも子どもたちは、さながら職人のように真剣な表情で取り組んでいます。無言のまま黙々と、一瞬の色の変化も見逃さないというように、色と向き合っています。たまに発する言葉も「ここピンクになった！」「あ！虹みたいになった！」「う目の前の現象への驚きがほとんどです。そして「これ楽しい！」「次のやりたい！」と津軽塗の職人と同じことを断片的に言います。

「こうしたい」「こうやりたい」と次々にアイデアを生む能力を、創作は引き出してくれます。これもまた人間にとって普遍的なものと言えるかもしれません。長谷川宏さんは『日本精神史』（講談社学術文庫）のなかで、縄文土器を見てこのように考察しています。

「煮炊きの道具として役に立てばよいという次元を超えて、器のすがたを魅力あるものにしようとする意志が感じられる。そこには実用を超えたなにか——遊びとか、余

裕とか、美しさと呼びたくなるもの——確かにある。」

縄文人が書き残した言葉は、現在残されていません。しかしながら縄文人が土器に形として残したことから、その想いを想像することはできます。縄文人の「こうしたい」「こうやりたい」という想いが、縄文土器をどのように独創的なものにしたのでしょ。子どもたちと津軽塗の職人が同じであるように、縄文時代の人々も同じようにものづくりに励んでいたに違いありません。

どの時代であっても、人間は大きく変わりはしないものです。縄文時代に絵の具は無かったでしょうが、色素が液体に広がる光景に見えたことはあつたはずで。縄文時代の歌を知ることではできませんが、ヒゲダンと同じことを歌った詩人もいたかもしれません。何かとアップデートで忙しい現代ですが、アップデートし得ないものもまた、私は大切にしたいと思っています。

花まる学習会 山崎隆



山崎 隆 Yamazaki Takashi

東京東ブロック教室長。千葉県の内陸部出身。2歳上の姉と3歳下の弟と、だだっぴろい関東平野の片隅で育つ。小さい頃、外遊びはもちろんだが室内で遊ぶのも好きで、図鑑を開いては恐竜のいる世界を想像していた。高学年の頃より伝記を通して歴史に親しむ。休みの日には、青春18きっぷで目的地もなく出かけることを楽しみにしている。

実におもしろい

年中の授業中。一本のストローに異なる大きさの輪を2つつけて飛ばす「ストロー飛行機“で遊んだ”時のことです。」「うわあ！ 飛んだ！ すごい！」と目を輝かせる子どもたち。飛ぶ原理を考えるよりも「飛んだ！」という結果そのものに興味を抱き、好奇心が駆り立てられ、やってみよう！と頭で考える瞬間には手を動かして始めている様子でした。この瞬発力はさすが幼児期の子どもたち。まずはやってみよう！と臆することなく見よう見まねで取り組めるところが素敵ですね。

そのうえで「おお！ これは伸びるわ！」と感じた、Kくんの行動がありました。すでに何度もフライトに成功した自作のストロー飛行機を眺めながら「うーん」と何やら考えている様子。飛行機を持つ手をグルグルと動かしながら考える様子は、数式を書き出すガリレオのよう。止まらない手と同様に動き続ける思考。そしてひらめいたKくん。「先生！ ばくこの飛行機をもう一個作りたい！」と目を輝かせました。「いいね！ やってみよう！」と材料を渡すと、先ほどよりも手際よく組み立てていきます。完成させた飛行機をどうするかと思っ

て見ていると「この2つをくっつけちゃうんだ！」と、ニヤツと笑いながらセロハンテープを取り出しました。ペタペタとテープを使い、2機の飛行機を合体させます。完成した巨大ストロー飛行機。トランスフォームの完了です。「よし！ 大きい飛行機になったぞ!!」（大きい箱《幼児期》の特徴でもありますね）と輝く笑顔。さあ、テイクオフ！ 輪とストローが増えたことで安定感もアップした巨大ストロー飛行機は、先ほどよりも飛距離を伸ばすことに成功していました。

傍から見たら一度完結したと感じられるそのあとに「さらによく（おもしろく）するには」ということを考えていたKくん。ナイスアイデア！ 素敵な発想！ これでもいいじゃん、と自分で限界を決めるのではなく、壁を突き破る。猪突猛進。現状維持で満足するのではなく、さらにおもしろいアイデアを生み出していくことができる。いいね。メシが食える大人“への階段を着実に上がっているね。と心のなかでつぶやいた私です。

花まるコラム

2023 年 12 月

子どもたちの持つ力は底なしで天井知らず。大人に比べると経験値が低いからこそ、先を見通してブレーキを踏むということをせずに、さまざまなことに挑戦できるのかもしれないね。

サマースクールで出会った1年生のMちゃん。みんなで楽しむ川遊び。自由遊びの時間になると、野生の川魚を捕まえよう！と必死に水面に顔をつけて探し回る様子が見られました。誰よりも長く（心配になりたまに声をかけるほど）水面に顔をつけ「いた！」

とMちゃん。魚がいそうなところに砂を撒き、目くらましをする作戦、このこと。実におもしろいアイデア！ だがしかし、撒いた砂は川の流れに乗って下流へとドンブラコ。」「あ！ 流れちゃった！ 次はどうしよう？」

思い通りにはいかなかった、という発見をも楽しんでいる表情で、次の作戦を練るMちゃんでした。

花まる学習会 秦野達也



捕まええられるだろう…と考えを巡らせるMちゃん。川底の石を拾い、大きな岩に絵を描くようにこすりつけていました。じやりじやりと石を持った手を動かし続けています。（来た！ ガリレオタイム！）さて、どうするのでしょうか。「石を削ってできあがった砂を使って毬を作るんだ！」

はな まるの教室長を紹介します！

花まるファミリー

オンライン

アルゴ ...アルゴクラブ

アノネ音楽教室

無人島

FC ...スクールFC

Flos ...フロス

Hanaspo

みんなの教室長も順番で紹介するよ。お楽しみに！



うつみ たくや
内海 拓也

千葉

神奈川県



かわなみ ともこ
川波 朋子

オンライン

東京都



こいけ まな
小池 麻菜

神奈川南

山梨県



しば けんた
柴 健太

東京南

東京都



つばた あつき
坪田 充生

茨城

東京都



にしやま ゆきの
西山 由乃

東京南

神奈川県



はやし たくろう
林 拓郎

東京西

長野県



ふるだて ちよみ
古舘 千代美

東京西

FC 埼玉県



みずの あおぞら
水野 青空

オンライン

神奈川県



よしおか なおや
吉岡 直哉

神奈川北

埼玉県



たかはし まさのぶ
高濱 正伸

〇〇〇

熊本県

リーダーネーム

名前

所属

出身地



ひろた ひでき
廣田 英樹

スクールFC
あざみ野校 校長



おおわき りょうすけ
大脇 良介

スクールFC
大森校 校長

出張！
FC
ファミリー

インタビューを
ラジオでお届け！



▲Voicy/幸せな受験ラジオ！

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

12月の誕生花は ポインセチア



高濱が、花まる教室長をちょっとおちゃめで紹介する新コーナー！ 自己紹介ならめ他己紹介で、花まるの仲間たちを一年かけてまると紹介しちゃいます。どうぞお楽しみに！